



御成門だより

令和5年5月1日発行
第2号
発行責任者
港区立御成門中学校
校長 佐藤 太

教育目標

「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」
〒105-0003 港区西新橋3-25-30 電話 03-3436-3553 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-tyky.ed.jp



『山道』と『定着』

校長 佐藤 太

さわやかな5月の風。新緑が映える明るい光の中で、2ヵ月目の学校生活がスタートです。

5月という季節を振り返ると、私が若い時に、毎年山登りをしていた記憶が鮮明に蘇ってきます。私の学生時代の趣味は登山で、日本のアルプス連峰や高山に登ることが好きで、GWはいつも山小屋に宿泊していました。仕事と家庭をもってからは趣味の登山はできなくなりましたが、一念発起して、2年前から体を鍛え始め、もう一度、秩父などの山々への登山に挑戦をしています。ただし、学生時代のように高く険しい山の登山ではなく低山登山です。登山を再開して、低山ハイクが大好きになりました。低山登山の良さは、低中位の視点から自然を眺めて感じる様々な感覚です。仰ぎ見る険しい景色ではなく、水平な視線や緩やかな勾配から眺める景色です。森林、空、遠くの街並み、広い裾野、昆虫や鳥、小動物にも出くわし、豊かな自然に身を置き、自分のペースで目的地へと歩きながら、色々なことを感じたり、考えたりすることが、とても良い時間なのです。よく科学者や哲学者が散歩中に新発見やアイデアが出るという感覚に似ています。

山登りで、いつも思うことがあります。それは「この『山道』は、いつ出来たのだろうか。」という疑問です。初めは草木で土の見えないただの山肌が、村人や行商人が隣り村まで仕事や旅に出かけたときに、同じ地面を1往復、2往復、3往復と何度も踏んで歩き、いつの間にか通った足跡の蓄積が道らしき道になり、多くの人を使うようになったのが山道です。当たり前ですが、始めは道はなかったはずで、何度も同じようなことを繰り返す中で、段々と雑草の地から土が見え、土が固くなり、山道になったのです。

5月に入り、勉強も本格的になりましたが、学習の『定着』も『山道』と同じです。一度では習った知識は『定着』しないかもしれません。習ったことを復習したり、習う前に予想して調べたりすることは、繰り返して往復した足跡が山道になることと同じなのです。授業で得た知識も山道で言えば、1回地面を踏んだにすぎません。学習が定着するためには、1往復、2往復、3往復とそれが定着するまで繰り返しが必要です。ましてや、1年生は中学生になって難しくなった教科の勉強をすることになり、2年生も1年生のときの勉強の大変さと大切さは経験済みでしょう。3年生は、進路に向けてしっかり実力をつける必要があります。

学生時代に「将来、私が教師になる」ことを応援してくれた中学時代の私の恩師が「太君、いいかい、人間の脳は1回で覚えるようには出来ていないんだよ、30回覚えては30回忘れ、31回目に覚えて初めて、自分の知識になるんだよ」と教えてくれました。脳は、千億個の物事の伝達を交信する神経細胞（ニューロン）から、出されたシグナルの伝達繊維（シナプス）が無数の網目状に結ばれていて、情報がシンクロして記憶が定着していったり、思考や理解が深まり身に付いたりします。シナプスとニューロンとの頻繁な行き来は、繰り返し・積み重ねの練習や努力で、自分の知識・技能として定着するのです。初めは何もないシナプスとニューロンが繰り返しをすることで、登山で言えば、山道ができ、安全に快適に歩きやすい道になるのです。それが自分の力となります。「知は力なり」です。

GW明けから1年生は移動教室でハイキングがあり、5月17日は中間テストです。山道のように繰り返すことで、学習したものを自分の力にしていきましょう。そのあとは3年生の修学旅行が待っています。

【追伸：私の山歩きの好きなおところは、足元を見ながら一步一步とマイペースで歩いていくことです。】

（保護者・地域の皆様）5月20日（土）土曜授業、6月10日（土）運動会など、今年はコロナ以前の形に戻しての学校公開・参観です。是非、学校に足を運んでいただき、子供たちへの声援をお願いします。